

リンゴスガ

春にリンゴやズミの枝上に糸を張り巡らし集団で葉を食べるイモムシ（幼虫）。最大長約20mm。体は地色が暗い灰色で、黒い斑紋がある。頭は黒い。

ときどき多発する。



1. 終齢幼虫，体長18mm. 1994/6/13.



2. 終齢幼虫. 1の拡大.

美唄市，庭のリンゴ.



3. 雄成虫，体長10mm，1の集団を飼育.

【学名】 *Yponomeuta malinellus*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera)，スガ科 (Yponomeutidae)

【分布】 北海道，本州；ユーラシア，北米.

【特徴】

幼虫は終齢で体長20mm前後。体は暗い灰色，頭部と胸脚は黒色，前胸背楯は黒く，中央に白い縦線がある。

幼虫の色彩，集団性であること，および巣の特徴から簡単に識別できる。

【生態】

宿主：リンゴ属（リンゴ，ズミなど）。

年1回発生。1齢幼虫で越冬。

幼虫は5月に集団で葉や枝上に糸を縦横に粗く張り巡らす。6月にはいると樹上で白い繭を作って蛹になる。
6月中旬～7月に繭から蛾（成虫）が羽化する。雌成虫は細枝に卵をまとめて産み、黒っぽい物質で卵を隠す。
夏に卵から幼虫が孵化するが、成虫により作られた卵の被覆物の下で翌春までじっとしている。

【被害と防除】

ときに多発する。被害は従来1年で終わっている。食害により葉がほとんどなくなることがあるが、夏までには葉を回復する。
食害で木が枯れた記録はない。森林では防除は普通必要とされない。
庭木などでも発生する。幼虫集団をみつけたら取り除いて駆除する。

【文献】

1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑：I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社, 大阪.
1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1：1-968；Vol. 2：1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

リンゴスガ suga/ringo/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1995/1/17.

1yochu.jpg, 1yochu2.jpg, 1seichu.jpg

「写真1～3」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1994.